

第37回日本分子生物学会年会 次世代育成事業

市民公開講座

生命に迫るサイエンス&アートの新たな挑戦

主 催:特定非営利活動法人日本分子生物学会

共 催:横浜市

日 時:2014年11月27日(木) 19:00~20:30

会 場:第2会場(会議センター 3階 301)

「生命」は学問の対象であるだけでなく、古来芸術の対象であり続けてきました。急速に生命科学が展開する中、現代のアートやデザインはどのように生命を捉えなおし、描き出そうとしているのでしょうか。生命科学とアートの境界領域の最前線にいる研究者・美術作家たちが熱く語ります。

登壇者:

奈良島知行 サイエンスイラストレーター／Tane+1 LLC 主宰

プロフィール:編集プロダクションStudio Slothを1977年に設立し、数々のサイエンスマガジン創刊に関わる。エアブラシを使用した独自のイラストレーション表現技術が、ジョンスホプキンス大学の学部長Gary Lees氏の目にとまり1985年に訪米。87年に渡米し、National Geographicの仕事のためワシントンでMedSciArtCoを設立。その後ニューヨークに拠点を移し、広告、書籍、教科書、雑誌等でサイエンスイラストレーションの仕事を展開。特にScientific Americanなどの科学雑誌の表紙や、Cell Biologyの教科書の多くのイラストレーションを制作。2005年、サイエンスアートの普及を目的にTane+1 LLCを設立。2014年、拠点を日本に移し活動を本格的に開始した。2008年度桑沢賞地域賞受賞。

岩崎 秀雄 生物学者・造形作家／metaPhorest(生命美学プラットフォーム)主宰、早稲田大学教授
プロフィール:バクテリアを使ってリズムや形づくりの研究をする一方、抽象的な切り絵やバイオメディアを用いた美術作品を発表してきた。2007年に自身の研究室を生命に興味を持つ作家たちに開放する、生命美学プラットフォームmetaPhorestを開設。生命科学がどのように生命を「表現」しようとしてきたか、芸術がどのように生命を「探究」してきたのか、科学と芸術の一筋縄ではいかないうちの本質的な関連性について考察している。アルスエレクトロニカセンター、NTTインターコミュニケーションセンター、オランダ・ペーパービエンナーレ、ハバナ・ビエンナーレなど、国内外で出展多数。近著に『<生命>とは何だろうか:表現する生物学、思考する芸術』(講談社現代新書)など。

ほか

サイエンス&アート作品展示

会 期:2014年11月25日(火)~27日(木) 8:00~19:00

会 場:ポスター・展示会場(展示ホール 1階 A+B+C)

metaPhorest主催

バイオメディアアート、生命美学の世界

metaPhorestは2007年に岩崎秀雄が自身の研究室をアート作家に開放して設立した、生命美学に関するプラットフォーム。「生命」あるいは「生命科学」に強い興味を持つ個性的なアーティストたちが、それぞれのモチベーションに応じて、研究室の設備を用いたり、あるいは科学者との共同作業や議論を重ねたりしながら、先鋭的な表現を模索している。彼らの作品の多くは国内外で精力的に発表され、高い評価を得てきた。通常の生命科学とは一味違う「生命探究」の営みの一端を紹介するとともに、新たな対話が始まることを期待している。

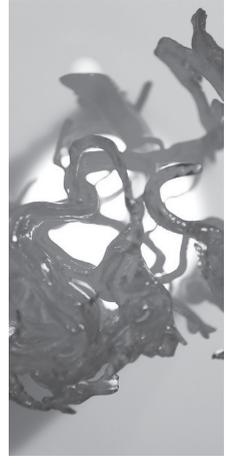
www.metaphorest.net

www.facebook.com/metaphorest.net

<出展者>

AKI INOMATA, BCL (福原志保, Georg Tremmel, 吉岡裕記)

Goh Uozumi, Juan M. Castro, 石塚千晃, 石橋友也, 岩崎秀雄, 齋藤 帆奈



サイアート・ネットワーク主催

サイエンス・アートの世界

サイアート・ネットワーク (SciArt Network) は、サイエンスアートの重要性を一般に広く認知させ、教育機関および関係者に対してサイエンスアート教育を根付かせる活動を行っている。海外では欧米を中心にすでに百年前からサイエンスのビジュアル・コミュニケーションの重要性が認識され、イラストレーションを作る専門の職業が成立しているが、日本ではこの分野の重要性がほとんど認識されていない。この立ち後れた日本の状況を打開するために、2014年に「サイアート・ネットワーク (SciArt Network)」が設立され、分野を問わない活動を開始している。

<出展者>

奈良島 知行

ジョーンズ・ホプキンス大学

トロント大学

<出展協力>

有賀 雅奈, 菅 徳子, 嶋田 隆将, 浅野 さとみ, 佐藤 美帆, 中澤 暦

